

第1回 校長会議あいさつ

R6.4.2 稲垣

風の色に街行く人の装いに、心浮き立つ季節を迎えました。今年は、桜の下で入学式ができそうです。学校では、新たなメンバーを迎えて、新学期への期待感に満ちていることと思います。子どもたちのために全教職員が一丸となって、気持ち良く教育活動に邁進できるようにご配慮ください。

本日は、年度当初にあたり、学校経営についてお話しします。

いい学校をつくるためには、教職員が前向きに仕事のできる環境が不可欠です。そのための要素を列挙してみます。

○笑顔の職員室は、先生方の安心感と向上心を醸成します。

校長をはじめ、リーダーに支えられている安堵感を浸透させましょう。不安を翌日に持ち越させないように、仕事に関わることで困っていたら必ず助けてください。誰一人も孤立させないように、職員間の絆を強めましょう。湯沸し室のほっとスペースの配慮も大切です。教頭はじめ役職者と力と心を合わせて、工夫してください。

○校長が夢を語り、教育目標を共通理解することが教職員集団の一体感を生みます。

「子どもたちに、このような能力や心を育てたい。だから、こういうことを大切にしていきたい」と語りましょう。行事も式典も現職教育も、全てはそのための手立ての一つです。

○職員間の適切な相互評価を育むことが、教師力を向上させます。

頑張りたい人が頑張れるように、また頑張った人が正当に評価されるように。心意気や明るさも能力のうちですし、目立たぬところで頑張っている人を見逃さないようにしたいものです。

○叱り忘れはあっても、褒め忘れは避けたいものです。

叱ることは後で指導できますが、褒めてモチベーションを向上させることはタイミングが大事です。年齢に気を配りながらも、皆が立場で気持ちよく動けるようにしましょう。

以上ですが、言うは易し行うは難しでもあります。校長先生方がそれぞれの経営ビジョンとキャラクターをもって努力していただければと思います。

昨日の新規採用教職員辞令交付式で次のような話をしました。

「皆さんの門出として、学校教育に携わる者の在り方についてお話します。三つの姿勢を心に刻んでほしいと思います。一つ目は、子どものことを第一に考えるということ。人は自分のことに囚われると迷い、弱くなります。教育に携わる者は、子どものためにどうすべきかを貫くことで、いろいろな壁を乗り越えていくことができます。二つ目は、自分を変えていくことです。教職の道に到達点はありません。自分の力は、いつも不足していると思うべきです。それでも子どもたちは、皆さんとの出会いを素直に喜んでくれます。その子どもたちに応えるために、自分を高め続けていただきたいと思います。三つ目は、人を信じ頼るということです。一生懸命やっけていてもうまくいかないことは誰でもあります。そんな時は、同僚や先輩、是非周りの人を頼ってください。」この内容は、校長先生からも先生方にお伝えいただければと思います。

教育改革のうねりの中で、幾つもの課題を抱えている学校現場です。一方で、働き方改革にも取り組まねばなりません。本当にバランスの難しい学校経営です。教育委員会といたしましても、全力で学校を支えていきたいと思しますので、どうか頼りにしていただきたいと思います。

間もなく登校してくる子どもたちをよく見てあげて、どの子にとっても楽しく、わくわくするような学校生活になるように、全職員による心遣いをくれぐれもお願いいたします。校長先生方のご健闘により、本市の全ての子どもたち、保護者、地域の皆さん、教職員の笑顔が溢れることをお願いして、年度冒頭の言葉といたします。